

法人における後見支援員の役割に関する研究

特定非営利活動法人 NPO かなびの丘

〒591-8023 大阪府堺市北区中百舌鳥町 2-69 ラレックス中百舌鳥 B S ビル 504

助成事業の概要

目的：後見支援員の実態を把握するとともに、後見支援員を定義づけするような後見支援員の構成要素を明らかにすることを目的とします。

時期：アンケート 7月～8月

ヒアリング 11月～12月

内容：アンケート 後見支援員の有無、被後見人の受任件数、体制等

ヒアリング アンケート調査を基に具体的な内容を掘り下げてお伺いしました。

事業の成果

本調査により後見支援員の可能性や課題を明らかにすることができました。特にヒアリング調査では具体的な内容まで聞くことができ、有用な資料となりました。

当初は後見支援員の役割を明らかにすることを目指していましたが、調査を進める中で後見支援員は所属法人の指示にそって活動する存在であり、法人がどのような役割を期待しているか、どのような体制を構築しているかによって大きく果たす役割が異なることに気づきました。何の条件もなく後見活動のみを実施できるのであれば、問題は発生しませんが、法人（特にNPO法人）として運営という側面も有し、予算や人材確保、他事業との関係性等さまざまな条件を考慮する必要があります。その中でも後見活動の質を確保する取

り組みはどの法人も苦慮していることがわかりました。特に被後見人の財産の管理には細心の注意を払っています。

成果の広報、公表

成果は「後見支援員に関する調査報告書」としてまとめました。報告書は50部作成しており、関係機関やアンケートおよびヒアリング調査でお世話になった団体や報告書を希望する団体に順次配布しています。

また、当法人のホームページにおいても公表しています。結果の概要は当法人が発行している機関紙において報告する予定です。

今後の展開

法人成年後見人のメリットの1つは継続性になります。今年度は継続性を担保する人材として後見支援員について調査を行いました。結論として法人体制にたどり着きました。

今後はもう一度、後見支援員に着目し、後見活動を継続していくためのモチベーションの維持について調査研究を行っていく予定です。